

第7回	台東区都市計画マスタープラン策定委員会 会議録
日時	平成30年9月11日(火) 午前10時～12時5分
場所	台東区役所10階 1004会議室
出席者	<p>【委員長】野澤委員</p> <p>【委員】池邊委員、中島委員、茅野委員、松本委員、松田委員、梅澤委員、本間委員、伴委員、岡田委員</p> <p>【事務局】原嶋課長、村上係長、齋藤係長、横倉係長、藤田主任</p>
議事	<p>○第6回都市計画マスタープラン策定委員会での主な意見と対応について</p> <p>○台東区都市計画マスタープラン(中間のまとめ)について</p> <p>○今後のスケジュール等について</p>
配布資料	<p>第6回台東区都市計画マスタープラン策定委員会議事録(案)</p> <p>資料1: 第6回都市計画マスタープラン策定委員会における主な意見と対応</p> <p>資料2-1: 台東区都市計画マスタープラン(中間のまとめ)の概要</p> <p>資料2-2: 台東区都市計画マスタープラン(中間のまとめ)</p> <p>資料3-1: 今後のスケジュール</p> <p>資料3-2: パブリックコメントの実施について</p> <p>資料3-3: 都市計画マスタープラン策定に向けた区民懇談会の実施について</p>
会議内容	
<p>1. 開会</p> <p>2. 第6回都市計画マスタープラン策定委員会議事録について</p> <p>【事務局】本日机上に配布してある、平成30年7月5日開催の第6回策定委員会議事録は、その際の資料とあわせて、区ホームページでの公表を予定している。本日持ち帰りいただき、ご確認の上、訂正箇所等がある場合は、9月28日金曜日までに事務局へご連絡いただきたい。なお、公表時には個人名や団体名等を伏せて公表する。また公表の時期は10月上旬を予定している。</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 第6回都市計画マスタープラン策定委員会での主な意見と対応について</p> <p>【事務局】(資料1の説明)</p> <p>【委員長】1章の一番右の列の該当箇所は3章ではなく、1章である。</p> <p>【委員長】前回の策定委員会の意見について修正したものが資料2-2に反映されている。ご意見がなければ、次の議題に移り、必要に応じて戻ってくるようにする。</p> <p>(2) 台東区都市計画マスタープラン(中間のまとめ)について(1~3章)</p> <p>【事務局】(資料2-1の説明)</p> <p>【委員長】1章は大きくは変えていないという理解でよいのか。1章を変えると全体に影響する。</p> <p>【事務局】変えていない。</p> <p>【委員】上野地域の土地利用について、将来地域像は一体的に表示されているが、下図は青エリア(文化・観光・都市機能集積エリア)と赤エリア(特色のある賑わいエリア)に分断</p>	

されている。何か意図があるのか。

【事務局】まちづくりビジョンの検討でも、駅周辺の文化・観光・都市機能の集積エリアと上野～御徒町近傍は同じではないと認識している。「特色のある賑わいエリア」はアメ横など特色のある大きな商店街の存在、秋葉原との関係性などを考えると、上野駅周辺とは性質が異なる。それぞれの地域を強化する必要があるため、このような分類になった。

【委員】正確には上野は3つの地域に分かれている。区役所付近の青エリアにおける文化・観光とは何を意味するのか。

【事務局】これから強化したいと思っている機能である。現状では上野公園エリアだけに文化・芸術機能が完結しているくらいが強い。鉄道や道路を超えたエリアは崖の影響もあり、関係性が絶たれている。少しでも文化・観光の要素をまちの方にも持っていきたい。まちの文化も山の文化と融合させることができないかという問題意識がある。

【委員】その説明なら、上野公園エリアと青エリア（文化・観光・都市機能集積エリア）は同じ括りになってもよいのではないか。

【委員】グラデーションのように表現し、3つのエリアが一つになっている感じが出せるとよい。上野駅周辺は駅周辺の特色が強く、観光的な部分が徐々に増えている。御徒町駅周辺とつなげ、このような変化が出せるとよい。

【事務局】強化する内容は似ているかもしれないが、駅周辺は少し内容が異なるため、都市機能という言葉をあえて入れている。必ずしも文化・芸術だけでなく、商業・業務（オフィス）の需要も考慮したいため、伸ばす特色としてイメージを変えている。

【委員】上野の商店街は駅前商店街として栄えてきたが、これからは上野公園の文化資源をフルに活用しながら将来に向けて発展していきたいと一丸となって取り組んでいる。そんな中で青エリアと赤エリアで機能が異なるといわれると困る。なおかつ、丸井の裏でエリアの境界があり、一つの商店街が二つに分かれているところに違和感がある。できれば賑わいのあるまちの部分に文化・観光機能を入れたい。

【委員】上野駅は鉄道が集積しており、台東区のハブ機能を有している。その機能を表現したいならば、もう少し青エリアの範囲を狭めてハブ機能を強調する必要があり、賑わいエリアは広く取った方がよい。青エリアに文化・観光を入れると、まるで上野駅が文化・観光の拠点のように誤解される。

【事務局】特色という言葉で複数個所にハッチングをかけているが、指摘通り、文化・観光機能をまちにも持っていきたい。まちづくりビジョンでは主にもともとある資源を活用する観点で検討した。再検討する。

【委員】「特色を強化するエリア」にもヒエラルキーがあるのか。「文化・観光・都市機能集積エリア」だけ「集積エリア」という表現を使っている。また、「特色のある賑わいエリア」だけ、賑わいの言葉が入っているため、他のところは賑わいがないかという疑問が残る。「特色を強化するエリア」を強調するのであれば、凡例を上を持っていき、それぞれのエリアが何を示すかが分かるようにする必要がある。「基本的な土地利用区分×特色を強化するエリア」で、将来的に特色を強化していくことを鮮明に出す必要がある。そういった意味では、都市構造と土地利用の方針があって、結果として描けるのが将来地域像であると認識する。さらに将来地域像のエリアにおいて、賑わいが生み出され、10年後の理想の生活が営めるといふ表現になっているため、「こういう方針でこういう土地利用をしたら結果的にこういう人々の暮らしが実現できる」というストーリー展開にした方がよいのではないか。

【委員】将来地域像の谷中地域において、「落ち着いた雰囲気に触れている」と「高い生活を送

られている」の文章表現は見直した方がよい。

【委員】青エリアは「文化・観光・都市機能集積エリア」となっているが、これは「文化・観光の都市機能集積エリア」と「文化・観光を含めた都市機能集積エリア」のどちらを指すのか。黄色エリアの「歴史・文化エリア」との区別がつかない。都市機能集積エリアという表現は不適切ではないか。実は浅草も駅周辺だけ青エリアになっている。特色の言葉も何の特色を指すのかが不明確である。浅草こそ「歴史・文化エリア」にふさわしいのではないか。凡例の右側の表現を再検討した方がよい。

【委員】「特色を強化するエリア」については、重なりがあってもよいと考える。上野地域の場合、駅直近は業務、周辺は商業ということで、青エリアと赤エリアに分かれてもよいと思うが、上野公園の「歴史・文化エリア」は市街地まで広げ、全部を包含させた方がよい。浅草の場合も「歴史・文化エリア」のような大括りのエリアがあってもよい。そうすると青エリアに文化・観光を入れなくても「都市機能集積エリア」だけで意味が通じる。つながりと一体感は重要であるため、あまり細かく分けられない方がよい。

【委員】都市機能の集積とは何を指すのか。鉄道のことを指すのか。

【事務局】業務を含む様々な機能を指す。

【委員】現状そういう機能があるか疑問である。

【事務局】これから集積していきたい。オフィスだけではない。

【委員】そこがコアになって周辺に観光客も滞留する。そういう意味での都市機能と理解している。

【委員長】「特色を強化するエリア」に関する表現に対する意見が多かった。実は土地利用方針図にこれが必要かどうかについても疑問がある。ものづくりエリアは拠点になっていないので、拠点として示しているわけでもないと思うが。

【委員】とても上手い見せ方だとは思いますが、言葉の表現については検討の余地はある。

【事務局】カテゴリーの分け方に問題があるかもしれない。また、「特色」という言葉で逃げたことも影響する。細かく定義すると網掛けの数が増え、分かりにくくなる可能性があるので、方法を検討する。

【委員】何の特色か枕詞が必要ではないか。

【委員】将来地域像の方が私たちも納得できる。

【委員長】商業・業務地のベース色が同じである問題意識から始まった。もう少し細かく書けるならばどちらに比重があるかを書くのか、それとも基本的な土地利用に都市機能が集積したところだけでもう一色増やしていくのかの対応である程度整理できる。例えば上野の場合は、上野公園エリアの色と御徒町駅周辺エリアの色が間で重なれば、別の色をつける必要はなくなる。

【委員長】浅草の青エリアは何を狙っているのか。

【委員】浅草なら賑わいも入るのではないか。

【事務局】例えば文化・芸術をネタにしたビジネスをターゲットとした集積が考えられる。上野とは性格が異なる。

【委員】産業会館（東京都立産業貿易センター）を想定しているのか。

【事務局】特に意識してはいない。

【委員】発信機能の集積を意味するのか。

【委員】上野地域と同じく、二重に重ねたエリアでよいと思う。青エリアを上重ねる。

【事務局】台東区では難しいかもしれない。一般的に商業と業務は一体で語っているが、台東区の場合は状況が異なる。

- 【委員長】全部の地域が複合であるが、複合の中でもどちらかに比重を置くかを示せた方がよい。
- 【事務局】少しずつ色合いが異なる複合になっており、それが台東区の特徴となっている。
- 【委員】基本的な方針として、業務機能が減少しているため増やしたい気持ちが青エリアに反映されているのか。台東区によくある個人が経営する町工場ではなく、もう少し違った形の業務機能（本社機能等）を増やしたいのか。そうであれば、上野の東と浅草の南（バンダイ周辺）には青エリアがあってもよいと思う。
- 【委員長】この辺りの考え方を整理して、中間まとめの公表前に委員の確認を取った方がよい。
- 【委員】資料2-1のP6には谷中三・四丁目も含めたエリア分類になっているが、P7はエリア対象が異なっている。
- 【事務局】P7のエリアを広げる方向で対応する。
- 【委員】人口増加、住宅増加が進み、20年で2万人増（人口の約1割）との予想があるが、その増加分をどこで受け止めようとしているのか。高層マンションがどれくらい必要かといった検討はされているのか。地域別に何人といった計画はあるのか。
- 【委員】戦後ピーク時は長屋が中心となっており、人口約32万人であった。今は商業地の中でどういう居住形態が望ましいか分析が必要である。都市マスでは書けない話であるため、都市マス策定後、住宅マスタープラン（以降、住マス）の改定にあたり、検討していきたい。さらに先ほどの話（土地利用など）に居住が絡んでくると、話が複雑になるため、住マスでの対応とさせていただきたい。
- 【事務局】インフラも不足する恐れがある。
- 【委員】2万人増は台東区にとって大きいか。
- 【事務局】大きい。
- 【委員】地域別にみると南部地域の増加が大きい。
- 【委員】沿道の高層マンションに多くが吸収されると予想される。
- 【委員】商店街が衰退し、代わりにマンションが建っている。自然の流れで2万人の住処が決まりそうである。
- 【委員】広幅員道路沿いの高層マンションに人口増加が集中すると予想される。
- 【委員】小規模の事業所が減少すると予想する。
- 【委員】都市機能集積エリアに大きな業務機能が誘致できるとよい。
- 【委員】町工場の廃業が増えている。
- 【委員】廃業した町工場の跡地にマンションが建つ事例が増えている。
- 【事務局】戦後の建物も更新時期を迎えている。しかし小規模の敷地の集合体であり、街区もそれほど大きくなく、震災復興の影響により道路率も高い。今の生活形態からすると不便である。ちなみに人口については、戦前46万人であった時代もある。
- 【委員】マンション化が進む最も大きな理由は税制の影響である。固定資産税、相続税が高騰し、払えなくなった人は軒並み売らざるをえない。土地を買った側は高質利用しようとして高層マンションを建てる。上野でも最近2軒の老舗が、相続税が払えなくなり売却した。路線価が非常に高い。
- 【委員長】都市計画図が真っ赤（商業地域）というのも地価高騰に影響している。地価が高くなると税金も高くなり、更新されると高層マンションを建てるという、土地の価値に左右される仕組みになっている。
- 【委員】区全体の土地が高くなり、老舗は自分たちの稼ぎでは税金が払えなくなり、自分の家をマンション化するしかなく、自分たちはその下で商売をすることになる。最後の止めが相続税で、やがては撤退に追い込まれる。

【委員】居住については、住宅課で分譲と賃貸の実態調査を実施している。南部地域は特に利便性が高く、10㎡でも住みたいという需要がある。生活保護の考え方に見合っている4畳半住宅も新築で出ている。それが区にとってよいかどうか、もう少し掘り下げて検討しなければならない。住マスで引き続き検討する。

【委員】第2章のデータは説得力があってよいが、だから都市マスで何をやるのかつながり分かりにくい。業務の強化については先ほどの議論の内容で理解した。

【事務局】その辺の内容については、分野別まちづくり方針等に記載がある。

【委員長】住マスで対応する内容もあるとのことであるが、都市マスでも少しだけ触れておく必要がある。きちんと連携を図った方がよい。

【事務局】都市構造と土地利用があってそこで展開される将来像が出てくる順番にした方がよいとの意見があった。

【委員】20年後実現された表現になっていることからそのような発言をした。「土地利用や特色を強化した結果、こういう生活が実現できる」というストーリーの方が区民向けには分かりやすい。

【委員長】将来地域像の内容が先にあって、ここで示す将来20年後の地域を目指すために、このような都市構造と土地利用にするストーリーを考えていた。

【委員】だとしても真ん中にあるのは違和感がある。

【委員長】それはおっしゃる通りである。どちらの方がよいか悩んでいる。

【委員】我々は今の順番でも構わないが、区民の立場からすると、現在形で書かれている将来像を20年後の将来像として最後に入れた方が理解しやすいのではないか。

【委員長】3章のまとめの位置付けになる。そういう考え方もよいと思う。皆さんの意見を聞かせてほしい。

【委員】「これを実現するためにはこれが必要だ」の順番は区民には分かりにくい。今回の都市マスは「ひと」に焦点を当てているのに特色がある。ガワではなく、生活の実現に重きを置いている。

【委員長】ただ3章の頭に将来像と基本目標を掲げているため、並びとしてその後に将来地域像の内容が入った方がよいと思う。P4の次に将来地域像が来て都市構造と土地利用が続く構成である。

【委員】それはよいと思う。いずれにせよ、都市構造と土地利用の間に入るのはよくない。

【委員長】将来地域像は将来イメージと離れない方がよい。要するに資料2-1だとP5とP6が入れ替わるイメージである。その方向で検討するとともに、土地利用の描き方についても再度検討する方向でお願いしたい。

【委員】言葉遣いについて、将来都市構造と将来地域像では「将来」の言葉が使われているが、将来地域像はよいとして、都市構造と土地利用は都市施設向けの計画となっているため、分かりにくくなっている。例えば「将来都市構造」ではなく「都市構造」にし、「将来地域像」のみ将来と絡むことが分かるようにしたらどうか。

【委員長】だんだん分かりやすくなってきたと思う。

(3) 台東区都市計画マスタープラン(中間のまとめ)について(4~6章)

【事務局】(資料2-1の説明)

【委員】P12の景観まちづくり方針について、上と下を書いてある内容の整合が取れておらず、

「景観形成」と「景観づくり」の表現が混在している。「台東区を代表する、風格ある景観形成」では上野と浅草を意識しているように読み取れるが、台東らしさを醸成し、台東の言葉を使うのならば、上野、浅草、谷中、根岸など、各地域にも関わってくるため、見出しは「台東区らしさを醸成する」または「地域特性を活かした」の枕詞を活用して「風格ある景観形成」を語った方がよい。また、景観形成と景観づくりといった類似した用語が混在しているので、柔らかい感じがする「景観形成」に統一した方がよいのではないか。

【委員】自然資源については、上野公園と隅田川など大きな自然資源を有し、都心区としては豊かと感じるため、「豊かな自然資源を活かした…」にしてもよいのではないか。また、賑わいの演出については、演出という演出しなければならぬ圧力を感じてしまう。その他の個所では演出ではなく、創出という言葉を使っているため、創出に統一した方がよい。景観まちづくりの部分だけが表現が浮いており、大きくなりすぎていて個別具体に行っている感じがしない。

【委員】「景観とは人々と一緒につくっていくもの」という感じがここにはない。入れるかどうかは区の方針にもよると思うが、例えば景観づくりという人の資源を活かし、商店街・住民と一緒につくるところがあって、最後の「地域の愛着、誇りをうみだす景観の形成」につながるのではないかと。人と一緒につくることを入れた方がよい。

【委員】基本的にはこの内容でよいと思うが、上野地域の「文化・観光・都市機能集積エリア」については、ここでもあわせて調整していただきたい。

【委員長】浅草についても同様の対応が必要である。

【委員】御徒町駅のまちづくりについては、周辺に上野と秋葉原があって御徒町が埋没気味な中で、パンダ広場を整備し、駅前がきれいになった。今後様々な活用を含めてまちづくりを進めていく際に、御徒町らしい特色をより出していけるとよい。ジュエリーに特化するつもりはないが、具体的には高級感を出したいと考えている。「気品」のあるまち、都市空間を形成していきたい気持ちがある。上野地域の中で、御徒町駅周辺のまちづくりをどのように進めたいか言及してほしい。

【委員】御徒町駅周辺の交通結節点の強化について、イメージされているものがあるか。

【事務局】新たな何かを持って来るよりは、歩車空間をつくるなど、利用する人たちを上手くつなげたい、それに伴い鉄道からバス、鉄道からタクシーなど、結節機能の向上が図れるとよいという問題意識のもと、そう記載している。それが集積にも貢献できるとよい。

【委員】P19について、現状の都営浅草線浅草駅からの移動が大変であるが、浅草は観光地であるため、バリアフリーをより強調してほしい。また、隅田川と3か所の船着場などの資源があるので、舟運を活用した話についても言及が必要と考える。

【事務局】資料2-2のP5-16に記載はしている。それを表書きとして出すかどうかの違いである。バリアフリーについても、②に記載がある。

【委員】まちづくりの中で、産業会館などの公共施設も含めて全体的なバリアフリーが必要と考える。全ての地域に入れるべきかどうかという問題もあると思うが。

【事務局】バリアフリーという言葉が、各地域や分野の中に埋め込まれている。これまで特定事業計画の中で積み上げて実施しているため、当然のように取り組んでいる意識である。ただ、浅草駅周辺は問題が大きいので、課題としては認識している。

【委員長】当たり前のようになっているが、できていないところがあるのも現状である。しかし入れ始めると、うるさくなる恐れはある。浅草・中部地域に本文として記載があるので、当該地域では問題が大きいことは既に読み取れる。

- 【委員】大きなところの指摘はないが、花とみどり・環境まちづくり方針にある「みどりと風の通り道」について意見がある。「みどりの軸」としては理解できるが、「風の通り道」は具体的な施策がない中、本文との関係や本当に風の通り道なの疑問がある。今年特に暑かった影響もあり、熱環境対策（クールスポット、木陰など）が必要と感じている。地球環境に配慮するだけでなく、地域の熱環境を考えて、みどり、風の道などを語る必要がある。台東区は暑いイメージがある。
- 【委員】景観まちづくりについては、生活に関わる記載が1か所だけあるが、台東区の特徴は生活感がにじみ出るところと認識している。風格は外の人向けに必要な要素である。一方で、生活を生み出す観点も必要であるため、本文レベルに留まらず、2番目か最後かどちらかに見出しレベルとしても出して強調したらどうか。
- 【委員】地域別まちづくり方針図にスケールを入れる必要がある。歩ける近隣を意識し、歩く時間を強調するなら、徒歩数で示す手法も考えられる。
- 【委員】P14に自転車やカーシェアリングの話があるが、台東区には自転車置き場が少ない問題がある。国道、都道は難しいかもしれないが、できる範囲で駐輪場確保に取り組んでほしい。
- 【事務局】自転車施策には力を入れているが、大規模施設整備は難いため、まずはシェアサイクルの推進から取り組みたい。ゲリラ的な対応にはなるが、コインパーキングの使い切れないスペース（車1台が駐車できない狭いスペース）が活用できないか研究中である。
- 【委員】地方で歩道を活用した先進的な事例を見かけることがある。
- 【事務局】区内でも稲荷町で取り組みがある。シェアリング、特にマンションでのシェアリングについても考えている。
- 【委員】楽しみにしている。
- 【委員】駐車場についても検討が必要である。東京都駐車場条例の附置義務によると、中小規模のビルでも駐車場附置義務が生じ、商業施設ではそれが問題となっている。商店街の人の流れを分断してしまう。その対策として都内には銀座地域ルールなどの事例がある。まちの賑わいをつくる中で、駐車場の問題は触れておかないといけない。
- 【委員】モータリゼーションがかなり衰退している。台東区の場合、数百億円をかけて地下駐車場を整備したが、利用率は低い現状である。駐車場問題は切迫した問題ではなくなった。ただ、警視庁の取り締まり対策が厳しくなってきた社会的な影響が出ている。例えば、配達に無駄に取り締まりをかけ、運送会社に余計な人件費が発生している。しかしどちらかというと、道路の有効活用について考えていただきたい。
- 【事務局】資料2-2のP4-26の2番目の丸に記載がある。地域ルールの活用などは必要と感じている。また、警視庁では荷捌きスペースについての取り組みを推進中である。区内でもそのような取り組みが増えている。
- 【委員】例えそういったスペースが整備されたとしても、運送会社が1社で占有してしまうと非効率であり、かえって交通渋滞を招いてしまう。台東区や国交省のような行政機関の方から、全体的な物流のことを考慮して対策に取り組まないと根本的な解決にはつながらない。共同集配などエリア単位で考えてほしい。
- 【委員】自転車も同じで、観光客がシェアリングを利用すると、駐輪場の需要も減少する。そのため、むしろシェアサイクルの方に軸足を移してほしい。千代田区、港区、文京区などでは赤い自転車のシェアサイクル事業が普及されており、区界を超えた相互利用も可能となっている。各区がばらばらで取り組むのではなく、相互連携して取り組んでほしい。
- 【委員】20年後の谷中を考える場合、今の歴史、みどり、文化が将来も残るか疑問に思う。世

代交代で相続問題が発生し、古い家がマンションに代わっている。歴史的建造物を保全・活用する方法も考える必要がある。広い空が感じられる景観の記載に関連しては、谷中のまちの特色の一つである低層住宅地を守ってほしい。

【事務局】低層については、資料2-2のP5-10の(3)の①に記載がある。基本としては低層中心と考えている。同ページの(1)の①にも保存、活用、生活スタイルを大事にすることについて記載がある。

【委員長】P5-10の記載は「特色を保存」でよいのか疑問がある。

【委員長】これはマスタープランのため、ここからどういう施策を打っていくかについては、次の段階で検討することになる。地域の皆さんとのご相談でもあり、地域の皆さんも区に関心を寄せることになると考えているため、期待している。しかし、ここに書いておかないとやらないことになる恐れもあることに留意する必要がある。

【委員】6章のまちづくりの主体に町会が抜けている。下町の人情やコミュニティを象徴するのが町会と認識している。地区の町会長は全員が70歳以上であり、町会の運営は人口の1/4~1/5である旧住民が行っている。このままでは町会が維持できないという意見が出ており、曲がり角に立っているのが現状である。人口が増えて、マンションが増えていく中で、町会を維持していく必要があると考える。

【委員】道路・交通まちづくり方針図については、道路寄りであり、公共交通の要素が少ない。めぐりんは都市マスの中でどのような位置づけなのか、本文には触れているが、図面にはめぐりんの路線又はバス停が反映されていない。都市計画マスタープランとしては入れるのが難しいかもしれないが、検討してほしい。

【事務局】鉄道は入れているが、バス路線は入っていない。現在の時点の情報を入れる手はあるが、社会実験での利用状況を踏まえて3年に1回程度改正しており、直近も改正がある。入れにくいところはあるが、区の大事な公共交通で区民の足、来街者の足になっており、4路線もきめ細かく運行されている事例は他に類を見ないため、入れる方向で検討する。

【委員】御徒町駅周辺は放置自転車が問題となっている。シェアリングを推進する考え方もあるが、問題に直面している側からすると違和感がある。とある商業施設で地下に駐輪場をつくったが、それでも放置自転車の問題が発生し、どうしようもない状態である。放置自転車については、一旦放置するとなかなか行動の転換が難しいところもあり、条例で罰則を定め、取り締まりを強化することにより、ルールを守るようにする必要がある。

【委員】放置自転車に関しては日々苦情や意見をいただいております。区でも指導をしています。シェアサイクルについては、5月から実証実験を開始し、区内に数か所、区の施設や民間(コンビニ等)の敷地の一部にもポートを設けている。区役所周辺にも白い自転車のポートがある。それを放置自転車の解消にどう役立たせたらよいかを把握しておく必要がある。

【委員長】後から気づいた意見については、事務局に直接伝えていただき、中間のまとめに反映すべき事項は反映したい。

(4) 今後のスケジュール等について

【事務局】(資料3-1、資料3-2、3-3の説明)

4. 閉会

【事務局】次回の策定委員会は、平成30年12月下旬の開催を予定している。詳細は追ってお知らせする。

以上